

# わたしたちの 働き方改革

第18回

## リカレント教育と リスキリング（後編）



はまぐち けいいち  
**濱口 慶一**

1967年石川島播磨重工業(株)に入社。1971年より(株)京セラ三重伊勢工場、1979年より(株)イーベックスインターナショナル取締役副社長を経て、1987年(株)コスモス・コーポレーションを創業。2021年長岡技術科学大学大学院に入学し、システム安全工学を専攻、2023年修士課程修了。



国立大学法人長岡技術科学大学  
技術研究院 システム安全系  
システム安全工学専攻 准教授

ほうじょう りえこ  
**北條 理恵子**

駒澤大学大学院にて心理学修士取得。その後2004年まで米国で行動毒性学を学ぶ。帰国後、東京大学で博士(獣医)を取得。環境省、経済産業省、厚生労働省の研究所勤務を経て、2022年より現職。日本行動分析学会、日本機械学会会員。

リカレントを体験したばかりの濱口慶一さんがひょっこり現れました。濱口さんは75歳で長岡技術科学大学の修士課程に入学した現役の社長さんです。社長業をこなしながら、システム安全専攻の修士号を見事に手中に収め、修了式では、総代という偉業も成し遂げました。そこで次の会話が始まりました。

### 自身の理論の再確認と 人的ネットワークづくり

**北條** 「濱口さん、おめでとうございます。修了していかがですか？」

**濱口** 「業務に戻ったら、すぐ社長業に戻されてしまい、全く余裕のない人生です。でも、会社を製品認証機関にしたいという思いがあったので、社会人入学で関係する学課の学校を探し、本日、高卒から一気に修士号をもらうまでになりました」

**北條** 「私も、かつて社会人入試を受けて、大学で学び直しをしました。その頃は、編入やリカレント教育の制度が十分に整っていなかった。学部1年生からやり直しました。今なら、迷わず大学院に行ったと思います」

**濱口** 「現在のリカレントやリスキリングという制度は非常に良いと思います。今まで、

独学で学んできた技術者倫理などが、正しい方向であったと確信が得られました」

**北條** 「今までの、ご自分なりの勉強の集大成のようなものでしたね」

**濱口** 「おっしゃるとおりです。入学初期に同級生と、製品安全技術者としての判断や立ち位置について議論を交わしましたが、修了記念の懇親会では、私の主張に理解を得たような発言をその同級生からもらい、うれしかったです。このような議論も学び直して得た大切な経験です」

**北條** 「製品安全技術者の方もクラスメートにいらしたのです。私の時代は、社会人入試で入っても、周りは現役の大学生で、全く同じカリキュラムをこなすしか方法がありませんでした」

**濱口** 「クラスメートにさまざまな職種の方がいらしたので、ネットワークを作ることができました」

**北條** 「それはうらやましい限りです。私のときには100人の中に社会人は3人だけでした。ところで、濱口さんは、多くの科目を履修していらしてびっくりしました」

**濱口** 「独学時にも勉強していた科目だったので。実は、課題にはちよつと苦しみました。楽しかったです」

**北條** 「土日の集中講義で、講師が複数いると課題も多くなる場合がありますからね。でも、平日に授業を行うのが普通だった20年前は、社会人であっても毎日通学していました。それまで仕事をしていましたが、結局、退職して大学生活を続けました」

**経営者の自分と学生の自分の頭の使い方の違い**



**北條** 「学業のほかに、リカレントをしてよかったと思ったことはありませんか？」

**濱口** 「河井継之助<sup>つぐのすけ</sup>\*の記念館などを訪問し、より詳しく人柄を学べたことは、財産ですね。商人の発想がいかに大切かを深めることができました。士農工商制度を守りながらも、年貢で苦しむ農民を何とか救って藩政を豊かに、と願う長岡藩家老の意志が少し理解できた気がします」

**北條** 「それはよかったですね。長岡という土地柄も濱口さんには良い場所だったということですね。それでは、逆にリカレントをしてみても、大変だった点や、問題だと思った点はありませんか？」

**濱口** 「覚悟はしていましたが、経営責任者の濱口と学生の濱口の頭脳の使用時間の切り分けに苦労しました。経営上の問題も学業での課題も、今までの知識と

ともに探究して答えを出す必要があります、できる限り良い結果を出したいとの欲求から、大きなストレスになることが多かったのです。どちらも回答を出すのに時間がかかり、それを後回しにする悪い癖で苦しみました。でも、授業で学んだ、基本の事実に基づいた考えをまとめる」ということは、経営者の組織運営のためには大きく役に立ったと感じています」

**北條** 「それは私も分かる気がします。私も、社会人と学生、両方の自分がいて、学生生活をリアルで行っている自分と、一度体験した第三者として懐かしさのよさな感覚を持って眺める自分が同時にいて、少し不思議な感じがしました」

**濱口** 「75歳になって、なぜ勉強なのか、と尋ねる人もいますが、私にしてみれば、逆に、勉強すること何もないの？と聞きたいくらいです。そのくらい勉強が楽しかったです」

**北條** 「確かにそうですね。自分で学びたいことがあって学び直したのですから、本当に楽しい毎日でしたね」

**濱口** 「COVID-19の影響でウェブ授業も多かったのですが、私の場合は、経費の削減や、経営者として考える時間の創出という点では大変有益であったといえます

す。そのおかげで、1年目で可能な限りの履修申請をして多くの単位を修得できたことは、修論作成時間に多くの時間が取れたのでよかったですと思います。一方、授業参加での結果では、やはり対面に勝る授業形態はないとも感じています。同級生や教授との直接の議論は楽しいものでした。苦労したのは、授業のメモを残すことや、反復学習、復習です。授業をビデオにして、あとで繰り返し聞けるように公開をしてほしかったです」

**北條** 「そうですね。社会人として仕事をやりながら学生もやるわけですから、授業の復習は大切です。ウェブ授業の登場は、通学するしか方法がなかった私の時代に比べて、ずいぶん学び直しがしやすくなりました。今度は学び直しをお手伝いする側になってみて、いい時代になったと少し感じます。今後も頑張ってくださいね、濱口さん」

**濱口** 「ありがとうございます。頑張ります！」

働きながらの学び直しは、ずっと身近で気軽になったといえます。

ぜひ、皆さんも学び直しについて興味をもっていただけだと思います。

\* 幕末、長岡藩上席家老として藩政改革を行った。その生涯は、司馬遼太郎著「峠」に詳しい。